

両生類ってどんな生きもの？

陸

史上最初の陸生脊椎動物^{せきつい}

今から3億7千万年くらい前のこと。水中生活を送っていた脊椎動物の一部が、陸上生活をはじめました。肺呼吸を行い、陸上の重力に抗う四本の頑強な足を持つ、史上最初の陸生脊椎動物の誕生です。そしてそれこそが、最初の両生類なのです。つまり、私たち哺乳類の祖先も両生類ということになります。なんだか、両生類が身近になってきました。

ただし、はじめて現れたその両生類は、現生のカエルやサンショウウオとは異なる系統の生物で、後に絶滅してしまいます。

現生の両生類は、大きく3つに分けられます。成体になると尾が無くなるカエル（無尾目）と、成体になっても尾が残るサンショウウオ（有尾目）、そして、日本にはいませんが、一見ミミズのように見えるアシナシイモリ（無足目）です。本書では、日本で見られるカエルとサンショウウオの中から相模原市域で確認されている15種類について紹介しています。



水陸両用？

確かに両生類は、一生の中に水中と陸上の両方の生活があります。しかし、実際に水生生物として過ごすのは、卵から幼生の期間だけです。多くの種は、変態してひとたび陸に上がれば、れっきとした陸上動物です。産卵の時期以外、水に入るとはほとんどありません。繁殖期間の長いトウキョウダルマガエルやウシガエルのように、水の中にいる時間が長いカエルもいます。しかし、例えばモリアオガエルは、一生のほとんどを樹上で過ごします。産卵も樹上など、陸上で行うので、成体が水に入るとはまずありません。水陸両用車のように、時と場合によって水生と陸生を使い分けるような、便利なものではないことがわかります。むしろ、幼生時代にどうしても水が必要な生きもの、と言った方が正確です。両生類は、水と陸がセットになっていないと生きていけないのです。

水

よく見てみよう！

— からだの特徴 —

カエルの足の指

アマガエルやアオガエルは、指先に大きな^{きょうばん}吸盤があります。これを使って草の茎も木の幹もずんずん登ります。葉っぱの裏に逆さにくっついていることも。地上を主な生活場所にしているヒキガエルやアカガエルのなかまには、目立つ吸盤はありません。また、流水性のサンショウウオの指先には爪があります。

マンガなどでカエルの足の指は3本だったり4本だったりしますが、日本に生息する両生類はすべて、前足が4本、後ろ足が5本です。

ジャンケンはできないかもしれないけど、ジャンケンするつもりでカエルの足をよく観察してみよう。写真の足を見て、カエルの種類を答えられたらあなたの勝ち。写真はいずれも相模原に生息している種類のカエルたちの足。モリアオガエル、トウキョウダルマガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル、ウシガエル、ニホンアカガエル、カジカガエル、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ヤマアカガエルの10匹。

さて、どのカエルの足でしょう？

※正解は最後のページをご覧ください。

カエルと
ジャンケン
ポン！



後ろ足で泳ぐ、 ジャンプする

カエルの泳ぎ方は人間の平泳ぎとよく似ていますが、前足は使いません。だから、大きな水かきがあるのは後ろ足だけです。とくに、トウキョウダルマガエルのジャンプはスピードも距離も抜群です。自分の体の何倍もの長さをひとつ飛び！



上からトウキョウダルマガエル、アマガエル、ツチガエル

めい 鳴のうのあるカエル

長期間にわたって大きな声で鳴くカエルには、鳴のう（鳴き袋）があります。鳴のうをふくらませ、息を止めた状態で口と鳴のうの間の空気を出し入れます。すると声帯が振動し、さらに鳴のうが共鳴装置になって、小さな体からあんなに大きな声が出せるのです。アズマヒキガエルやヤマアカガエルも鳴きますが、目立った鳴のうを持ちません。また、サンショウウオは鳴かないので、鳴のうはありません。

いろいろ見てみよう！

－ 繁殖のしかた －

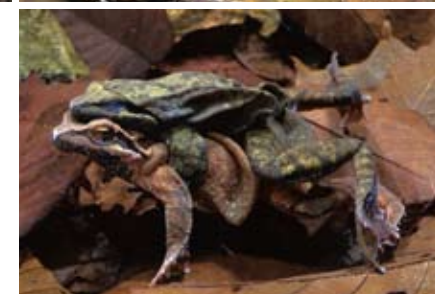
繁殖期間

アズマヒキガエルやヤマアカガエルは、1回の繁殖は数日から10日くらいで、短期集中的に産卵します。このような種類は、あまり大きな声で鳴きません。一方、ニホンアマガエルやトウキョウダルマガエル、カジカガエルなどは、オスが大きな声で鳴きメスを待つタイプで、繁殖期は数カ月におよびます。イモリやサンショウウオのなかまは鳴くことはありませんが、オスがメスのまわりに集まって独特の求愛行動を取り、産卵^{うなぐ}を促します。

抱接^{ほうせつ}

カエルは産卵するとき、メスの背中にオスがおんぶするような格好でしがみつきます。これを抱接と呼びます。多くの種は「カエル合戦」と呼ばれるオス同士の熾烈^{しれつ}な争いの末、1頭のメスに1頭のオスが抱接します。しかし、モリアオガエルは樹上で泡に包まれた卵塊を産みますが、1頭のメスに対してはいくつものオスがしがみついています。メスが産卵すると同時に、オスは精子を放出します。

サンショウウオは抱接せず、オスがメスにからみつくように集まる中で産卵します。



(左) シュレーゲルアオガエルの土の中の抱接
(右上) アズマヒキガエルのカエル合戦
(右下) ナガレタゴガエルの抱接

止水と流水

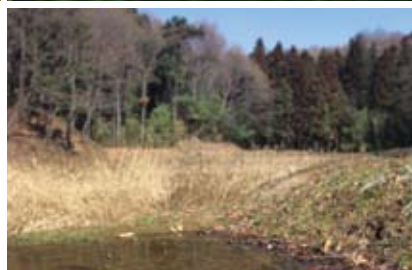
止水

産卵する水域をおおまかに分けると、止水と流水になります。止水は、水田や池、水たまりなど、流れがごく緩やかか、まったく流れない場所です。本書ではアズマヒキガエル、ニホンアマガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、トウキョウダルマガエル、ツチガエル、ウシガエル、モリアオガエル、シュレーゲルアオガエル、イモリがこれにあたります。

流水は主に溪流^{けいりゅう}で、流れの中にある岩の下などに卵を生み付けます。本書ではナガレタゴガエル、カジカガエル、ヒダサンショウウオ、ハコネサンショウウオです。また、タゴガエルは細い溪流や源流部などで繁殖しますが、流れのある本流ではなく、岸近くの水がわずかにたまったような場所です。止水とも流水ともいいたいのですが、溪流沿いを特に好むので、どちらかといえば流水に含まれます。



(左／上から) ニホンアカガエルの産卵、ツチガエルの幼生、水面に顔を出すウシガエル



(右／上から) イモリの卵、アカガエル類の卵塊

流水



(上から) カジカガエルの卵塊、ナガレタゴガエルの卵塊、ヒダサンショウウオの卵のう

それはいいこと？悪いこと？

ー 観察・飼育のマナー ー



水辺を荒らさない

両生類の産卵場所は、多くが水と陸との境界に近い場所です。そのような場所はもろく崩れやすいことが多いので、踏み荒らしたり崩したりしないように注意しましょう。また、両生類の卵は殻が無くて、乾燥に弱いなど、とてもデリケートです。むやみに移動したり、持ち出したりしないでください。



8



冬眠はさせない

カエルを飼育する場合、飼育下で冬眠させるのは非常に難しいので、室内でそのまま生活させる方がよいでしょう。冬眠はいわば仮死状態なので、体の負担が大きく、死と隣り合わせなのです。

元いた場所へ

●卵塊をまるごと持ち帰らない

両生類の多くは、絶滅のおそれのある野生動物として、環境省や県が作成するレッドデータブックに掲載されています。そのため、むやみに野外で捕獲して飼うことはおすすめできません。しかし、身近な水辺に産卵するカエルは、卵からオタマジャクシへ、さらに変態してカエルへと劇的に変わるようすを観察できる、生きた教材です。観察をしたいときは、卵塊を丸ごと捕るのではなく、10 卵程度すくって持ち帰るようにしてください。

●飼育に自信がない場合

成長する速さは、水温によります。室内なら、1 週間程度でオタマジャクシの形になります。オタマジャクシはどんどん成長し、早ければ2週間くらいで前足が出ます。前足が出ると同時に、エラがふさがれて肺呼吸をしますから、それまでに必ず陸地を作ってあげなくてははいけません。カエルに変態してしばらくすると小さな虫などを食べ始めます。しかし、そのタイミングと、小さなエサの確保はとても難しく、そこで死なせてしまうことがよくあります。飼育に自信が無い場合は、変態する直前までには元の水辺に戻してあげてください。必ず守っていただきたいのは、捕ったのと同じ場所に戻すことです。移動能力が低い両生類は、同じ種でも、地域によって独自の遺伝系統を維持していることがあるからです。



相模原の両生類図鑑 凡例・用語

【和名・学名】科名、種名ともに無尾目（カエル目）は『改訂版 日本カエル図鑑』（前田・松井 1999 文一総合出版）に従った。有尾目（サンショウウオ目）は『日本産野生生物目録』（環境庁 1993）に従った。配列は、編集の都合により入れ替えた部分がある。

ぜつめつ き ぐ しゅ 絶滅危惧種

本書の場合、神奈川県版のレッドデータブックである『神奈川県レッドデータ生物調査報告書 2006』（神奈川県立生命の星・地球博物館 2006）、全国版の『改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック—（1）』（環境省 2002）に掲載されている種。

絶滅の危険の高い方から絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類、絶滅危惧Ⅱ類、準絶滅危惧と分けられる。神奈川県版では、両生類については絶滅危惧Ⅰ類をA、Bに分けていない。また、神奈川県版ではこれらの下に、もともと数が少ない種を希少種、かつては広く分布していたのに、生息地または生息個体数が明らかに減少傾向にある種を要注意種としてあげている。

だんきゅうが い 段丘崖

川が大地を削ってつくった階段状の地形を河岸段丘と呼ぶ。相模原市の東部は相模川と境川によって削られた3段の段丘上にある。その段丘面と段丘面の間の崖（あるいは急斜面地）を段丘崖と呼んでいる。段丘崖の下部には、湧水が出ていることが多い。

つ く い 津久井地域

相模原市は平成 18 年に津久井郡津久井町と同郡相模湖町が、翌 19 年に同郡城山町と同郡藤野町が合併し、現在の市域となった。旧津久井郡四町のエリアを、本書では津久井地域と呼ぶ。

とうみん 冬眠

秋の終わりから春先にかけて休眠すること。両生類は外温性の動物なので、凍結せず、また、日照などによって温度が極端に上がらない場所で冬眠する。浅い土中や落ち葉の下、あるいは水中で冬眠する種もある。冬眠中は呼吸などの生命活動を極限まで低下させ、いわば仮死状態となる。

はんしよく き 繁殖期

産卵行動が見られる期間。

へんたい 変態

カエルでは、オタマジャクシ（幼生）からカエル（成体）になること。エラが消失して肺呼吸に変わり、尾も消失する。サンショウウオでは尾が残るため外見の変化が少ないが、エラが消失し、水中生活から陸上生活に変わる点でカエルと同じである。

らんかい 卵塊

卵の塊。卵が水中を浮遊しないように、粘性のあるタンパク質で互にくっつきあったり、陸上では乾燥しないよう、メレンゲ状の泡に包まれている。このような状態のものを卵塊と呼ぶ。また、ヒキガエル類のようにチューブ状のものを卵紐、サンショウウオ類のように袋状になっているものを卵のうと呼び分ける。その形は種によって特徴があり、ある程度種の識別ができる。



9

相模原の両生類図鑑

日本列島にはカエルが43種※、サンショウウオとイモリが21種生息しています。その中から、相模原市内で確認されているカエル12種とサンショウウオ2種、イモリ1種を紹介します。あなたはのうち何種知っていますか？そして、何種見たことがありますか？

※亜種も1種と数える。



アズマヒキガエル

Bufo japonicus formosus

ヒキガエル科

大きさ：大人の拳くらい



■ 要注意種 (県)

樹林があれば、平地から高い山、町中から里山、山地まで広く分布している。相模原市内の低地では、3月初旬から中旬に産卵する。浅い池や水たまり、水田などの流れのほとんど無い水域に、チューブ状のゼリーに包まれた卵紐を産む。産卵期は1週間程度と短く、メスをめぐってたくさんのオスが争う「カエル合戦」を繰り広げる。クックッ、ゲイック…などと鳴く。

相模原のここにいるよ

相模原市内では、段丘崖にそった水田や用水路、溪流脇の水たまりなどで産卵する。夏の間は樹林内で生活し、山地ではかなり広い範囲を移動する。丹沢の山頂近くでも見られることがある。



繁殖期



抱接



卵紐。チューブの太さは約1cm



びっしりと産みつづけられた卵紐

ニホンアマガエル

Hyla japonica

アマガエル科

大きさ：ウズラの卵くらい



水田のほか、池や水たまりがあれば市街地の植え込みや公園、草原を含む平地から高地まで幅広く分布している。相模原市内の繁殖期は主に5月から6月で、水田や湿地、池などの浅い止水域に産卵する。時には、放置されて雨水が溜まった水槽やバケツなどにも産むことがある。卵は1つずつ丸いゼリーに包まれていて、まとまりの弱い卵塊となって水草などにからみつく。初夏なら産卵から5日程度でオタマジャクシの形になり、その後3週間程度で変態し、上陸する。繁殖期以外は樹上や草の上で生活し、周囲の環境によって体色を変化させる。クワックワッ、グワッグワッと大きな声で鳴き、繁殖の最盛期には大合唱する。



12



アマガエルの生活



産卵する



水に浮かぶ



葉の上で休息



鳴く

相模原のここにいるよ

相模原市内では、水田のある場所には必ずと言ってよいほどいるほか、社寺や公園の池の周囲にもいる。ただし、コイなど捕食者のいる池では見られない。



GOODS
STORY

どれい
土鈴のカエル



のどにある鳴のうを膨らませて鳴いているアマガエルと、ぶっくり膨らんだ土鈴のカエル。ちょっと似ていると思いませんか？土鈴は、振るとコロコロと音のする郷土玩具として古くから愛されてきました。カエルの形をしたものもとても多く見られます。

昔、子どもたちが野外でアマガエルのおしりにストローをさしこんでふくらます、カエルにはかわいそうな遊びがありました。土鈴にはそんな風船のように膨らんだカエルにそっくりなものもあります。また、カエルは同じ種類でも生息している場所によって鳴き方が微妙にちがうらしく、土鈴も地域ごとに使われる土のちがいで音色が変わってきます。土鈴は、自然のカエルを上手に再現しているといえそうです。



13



ニホンアカガエルの幼生

ニホンアカガエル

Rana japonica

アカガエル科

大きさ：ニワトリの卵くらい



■ 絶滅危惧Ⅱ類（県）

平地から丘陵地に分布するが、山地には少ない。相模原市内の繁殖期は主に2月から3月で、夜間に雨が降り、かつ気温が高い日に、水田や湿地などの浅く流れのあまりない水域に産卵する。卵塊は一かたまりで生み出される。産卵後も休眠し、4月頃から再び活動する。繁殖期以外は森林や草地などに生息する。キョッキョッキョッと鳴き、繁殖期以外はほとんど鳴かない。

相模原のここにいるよ

相模原市内では、次ページのヤマアカガエルよりも少なく、津久井地域のあまり標高の高くない場所で確認されている。



目の後ろから
背中走る
2本の線に注目！

外側に曲がってれば
ヤマアカガエル、
まっすぐなら
ニホンアカガエルです

ヤマアカガエル

Rana ornativentris

アカガエル科

大きさ：ニワトリの卵くらい



山地に分布するほか、平地や丘陵地でも谷戸のような環境があれば生息する。相模原市内の繁殖期は主に2月から3月で、水田や湿地、池などの流れのほとんどない水域に産卵する。産卵は浅い場所を好み、小さな水たまりのような場所にも産む。1回の産卵は数日で終了するが、別々の個体によって春までに数回の産卵が見られることがある。繁殖後は再び春遅くまで休眠する。繁殖期以外は森林内に生息する。キョラララ、キョラララと鳴く。

相模原のここにいるよ

相模原市内では、段丘崖に沿った湧水から、津久井地域の山地まで広く分布する。夏はかなり標高の高い場所でも見られる。



冬眠中のヤマアカガエル

|タゴガエル

Rana tagoi tagoi

アカガエル科

大きさ：ニワトリの卵くらい



主に山地の森林に分布するが、低地の丘陵地にも分布する。相模原市内の繁殖期は主に3月から4月であるが、標高などによって大きく異なる。繁殖場所は小さな溪流の岩の隙間や地下の伏流水中で、オスが鳴いてメスを待つ。外から見えない空洞の中で鳴いて声を反響させるため、声が聞こえても、位置を特定するのが難しい。卵は一つ一つが大きめでたっぷり卵黄を持ち、幼生はこれを消費するだけで、何も食べずに変態することができる。繁殖期以外は主に樹林内の地上に生息する。グググッ、キュウ、グッなどと鳴く。

相模原のここにいるよ

相模原市内では、津久井地域の溪流、とくに細くて勾配のある源流近くに多い。



16



タゴガエルの後ろ足



ナガレタゴガエルの後ろ足
水かきは指先近くからはじまる



|ナガレタゴガエル

Rana sakuraii

アカガエル科

大きさ：ニワトリの卵くらい



■ 希少種 (県)

低い山地の溪流沿いに分布する。相模原市内の繁殖期は3月で、溪流の淵など、水深がやや深くなった場所で行われる。卵は100個前後の塊となり、やや大きな岩石の下へ潜りこむように産み付けられる。繁殖期に体の皮膚がひだ状に伸びて、水中での皮膚呼吸に適した独特の姿になる。繁殖期はほとんど水中で過ごすほか、冬眠も溪流脇の水たまりなど、水中であることが多い。繁殖期以外の春から秋は樹林内の地上に生息する。タゴガエルとはよく似ているが、水かきの大きさとで区別できる。あまり鳴くことはないが、グググと鳴く。

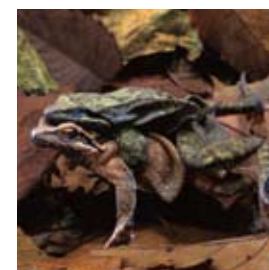
相模原のここにいるよ

相模原市内ではこれまで数力所しか確認されていなかったが、近年の調査により、津久井地域の溪流に広く分布していることがわかってきた。

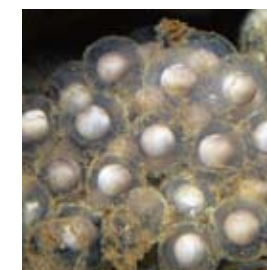


17

繁殖期



抱接



白くて大きな卵



幼生



トウキョウダルマガエル

Rana porosa porosa

アカガエル科

大きさ：ニワトリの卵くらい



■ 絶滅危惧Ⅱ類(県)・準絶滅危惧(国)



相模原のここにいるよ

相模原市内では相模川沿いに広がる水田地帯の一部に生息し、分布は非常に限られている。

平地から丘陵地の水田や大きな河川の周辺に分布する。相模原市内の繁殖期は5月から7月上旬までだらだらと続く。水田との結びつきが強く、繁殖期以外も水田周辺から離れることがない。冬眠も水田の中や周囲の土の中で行うことが多い。繁殖期の間に何回か産卵すると言われている。繁殖期のオスは縄張りを持ち、近づいてきたほかのオスを激しく攻撃する。関東地方ではトノサマガエルと呼ばれることが多いが、トノサマガエルは別種で関東地方には自然分布していない。トウキョウダルマガエルはトノサマガエルよりも足が短く、背中上の斑点が一つ一つ分かれている。グゲゲゲ・・・と鳴く。

似てるけど、ちょっと違う ダルマガエルとトノサマガエル

トウキョウダルマガエルは、両種の中間的な形態をしている



ダルマガエル

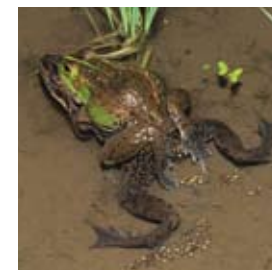
西日本に生息するトウキョウダルマガエルの亜種



トノサマガエル

トウキョウダルマガエルとは別種で、関東地方には生息していない

繁殖期



産卵



幼生



GOODS STORY

音楽家のカエル

カエルグッズのなかには、楽器を演奏している音楽家のカエルもたくさんあります。楽器編成や演奏者のスタイルから、見ただけでクラシック、ジャズ、ロック、邦楽など、さまざまな楽曲が聞こえてくるようで楽しめます。

カエルは自然史上初の自身で発声できるようになった動物だそうです。聴覚もいいらしい。種類ごとに鳴き声を聞き分けると、低音が得意なカエル、高音の響きのいいカエル、メロディアスに鳴くカエル、リズムを刻むように鳴くカエル・・・と、いろいろ。カエルの人形でオーケストラやバンドを組みたくなる気持ちもわかります。

音楽家のカエルグッズを見て楽しめば、あなただけの「カエル・ミュージック」が聞こえてくるかもしれません。



ツチガエル

Rana rugosa

アカガエル科

大きさ：ニワトリの卵よりやや小さいくらい



■ 要注意種 (県)

平地から丘陵地にかけて広く分布している。水田や池沼、湿地、山間部の溪流等に生息し、浅い止水に産卵する。相模原市内の繁殖期は5月から9月と長い。非繁殖期も水辺から離れることはない。水際の土の中で冬眠する。繁殖期後半に産まれた幼生はそのまま冬を越し、翌年変態する。捕まえると、皮膚からにおいのある粘液を出す。ギュウ、ギュウと鳴く。

相模原のここにいるよ

相模原市内では、トウキョウダルマガエルと同じように広い水田地帯の一部に生息する。特に、畦に土の部分が残されていたり、細い水路が残っている場所に多く見られる。



20



ツチガエルの幼生



冬眠する個体



鳴くオス



ウシガエル

Rana catesbeiana

アカガエル科

大きさ：子どもの頭くらい



相模原のここにいるよ

相模原市内では、相模川の河原に伏流水がたまった場所や、水田の周辺に多い。

北米原産の外来種で、日本には1918年に食用として持ち込まれた。平地に分布し、河川やダム、池沼、湿地、水田に生息する。相模原市内の繁殖期は5月から8月と長い。卵は一塊となって水面に浮かび、幼生のまま冬を越して翌年変態する。繁殖期以外も産卵場所周辺の草の茂った水辺に生息していることが多い。枯れ草の下や浅い土の中で冬眠する。ウォーン、ウォーンと低い声で鳴く。在来種と比べて一回りも二回りも大きくなり、口に入るものなら昆虫、甲殻類、魚類、鳥類、両生類、爬虫類、ほ乳類となんでも食べてしまう。生態系をかく乱する恐れがあるため特定外来生物に指定され、飼育、移動、保管などが禁止されている。



21



|モリアオガエル

Rhacophorus arboreus

アオガエル科

大きさ：ニワトリの卵くらい



■ 要注意種 (県)

海岸近くの平地から高地にまで分布しているが、低い山地に多い。相模原市内での繁殖期は6月から7月初旬で、池や湖周辺の樹の枝や葉のほか、水田周辺では畦に泡に包まれた卵塊を産む。メス1個体に対したくさんのオスが抱接する場合が多い。繁殖期以外は森林に生息し、常に樹上で生活している。冬眠も樹林内の落ち葉の下や、浅い土の中でおこなう。ククク、ココココ…と鳴く。

相模原のここにいるよ

相模原市内では以前から藤野町の繁殖地が知られていたが、近年、津久井地域全体で新たな繁殖地が次々と確認され、分布拡大傾向にある。これらが自然の分散による拡大なのか、人為的な拡大なのかは現在のところわからない。



大きな吸盤はアオガエルのなかまの目印



斑紋の多い個体



黄緑色の強い個体はシュレーゲルアオガエルとそっくり



泡に包まれた卵塊

モリアオガエルと本種は、以前は同種として扱われていたくらいよく似ている



|シュレーゲルアオガエル

Rhacophorus schlegelii

アオガエル科

大きさ：ウズラの卵より少し大きいくらい



■ 要注意種 (県)



平地から高地まで幅広く分布するが、平地から丘陵地の水田周辺に生息することが多い。相模原市内の繁殖期は4月から5月で、水田の畦や湿地の土の中に泡に包まれた卵塊を産む。水田で繁殖するカエルの中では繁殖期が早いめ、水入れの遅い水田では見られない。繁殖期以外は草の上や森林内の樹上で生活する。普段は緑色であるが、地面に潜っている際には褐色になる。リリリリ、リリリリと鳴く。モリアオガエルに似ているが、声質が高いのと、目の虹彩のまわりに赤みが少ないことで見分けられる。アマガエルとも混同されやすいが、鼻先がとがっていることと、アマガエルのように鼻先から鼓膜にかけて濃い色が出ないことで見分けられる。

相模原のここにいるよ

相模原市内では道志川や串川沿いの水田などで見られるが、生息する水田は限られている。



黄緑色が美しい個体



産卵中



抱接 アオガエルのなかまはオスとメスの体格差が大きい



カジカガエル

Buergeria buergeri

アオガエル科

大きさ：ニワトリの卵より少し小さいくらい



平地から山地に分布し、河川や溪流周辺に生息している。相模原市内での繁殖期は4月から7月で、同じ場所でも長く続く。水中の岩石の下に産卵する。繁殖期のオスは、水面に出た石を中心とした縄張りを持ち、その石の上で大きな声で鳴く。繁殖期以外は溪流沿いの森林内に生息する。フィフィフィフィ、フィーヨ、フィーヨと美しい声で鳴く。

相模原のここにいるよ

相模原市内では相模川の支流を中心にほぼ全域に生息するが、川幅が数メートル以下の狭い溪流にはいない。また、城山ダムより下流の中流部でも、段丘崖に接した場所では普通に声をきくことができる。



繁殖期



抱接 メスはオスよりずっと大きい



卵塊



幼生 口が吸盤になっていて岩にへばりつく

GOODS STORY

石乗りガエル

カエルが何かの上に乗っている姿を見かけることがあります。葉っぱの上、ハスの上、石の上、他のカエルの上、等々。それらはカエルの置物のデザインにもよく用いられています。

なかでも、石の上にちょこんと乗った、いわば「石乗りガエル」は、全国各地のみやげもの売り場でも地名の入ったものが売られています。置物の場合、カエルの種類までは特定してないことが多いのですが、実際、石に乗った姿が最も絵になるのは、カジカガエルではないでしょうか。

冬眠から覚めたカジカガエルが、谷川の岩の上で水しぶきを浴びて鳴いている姿が、石乗りガエルの原形かもしれません。



|ヒダサンショウウオ

Hynobius kimurae

サンショウウオ科

大きさ：尾を入れて 150mm くらい

■ 絶滅危惧Ⅱ類 (県)・準絶滅危惧 (国)

山地に分布し、標高 200-1000m 付近の溪流に生息する。繁殖期は 2 月から 4 月で、直射日光の射さない大きな石の下や伏流水の中に産卵する。卵のうは青みがかったバナナ状で、他の流水性サンショウウオに比べしっかりとした印象がある。幼生は流水性サンショウウオの特徴である爪を持ち、流れの緩やかな石の下などで生活する。個体によっては幼生のまま越冬する。

相模原のここにいるよ

相模原市内では丹沢山地の標高の高い場所に生息するが、詳しい生息状況はわかっていない。市内の関東山地では現在のところ確認されていない。

繁殖期



幼生 エラが外へ露出している



卵のう



|ハコネサンショウウオ

Onychodactylus japonicus

サンショウウオ科

大きさ：尾を入れて 170mm くらい

■ 準絶滅危惧 (県)

山地に分布し、溪流とその周辺に生息する。繁殖生態はわからない点が多く、卵のうの発見例も極めて少ない。繁殖期は通常 5 月から 6 月と言われるが、10 月下旬から 12 月にも産卵すると言われている。産卵は全く日光の射さない伏流水の中で行われ、半透明の卵のうを岩に付着させる。繁殖期になると雌雄ともに爪がはえ、特にオスの後肢の爪は非常に大きくなる。孵化した幼生は 2 年以上を水中で過ごす。

相模原のここにいるよ

相模原市内では丹沢山地の標高の高い場所に生息するが、詳しい生息状況はわかっていない。



サンショウウオとカエルの文学的關係

サンショウウオとカエルが登場する文学作品といえば、昭和を代表する文豪、井伏鱒二の『山椒魚』があります。世代によっては学校の教科書で読んだという人も多いのでは…。

頭が大きくなりすぎて岩屋から出られなくなってしまった山椒魚の苦悩という、冗談とも深刻ともつかない話は、作者の意図する想いとは別に、誰にとっても印象深い作品にちがいません。

実は、この作品、最初は『幽閉』というタイトルで書かれ、蛙は描かれていなかったようです。作者は後に蛙を登場させることで、蛙と山椒魚の間にある緊張関係、その言葉のやりとりから山椒魚の心の痛みをより深く描きだしました。蛙のバイブレーションもみごとに作品。



ニホンイモリ

Cynops pyrrhogaster

イモリ科

大きさ：尾を入れて 120mm くらい

絶滅危惧Ⅰ類(県)・準絶滅危惧(国)

池や水田、湿地等の水中に生息することが多いが、山間の林道や側溝などでも見られることがある。相模原市内の繁殖期は6月から7月で、メスは卵を水中の草や枯れ葉などに1卵ずつ産みつける。水中で踊るような求愛行動をすることで知られ、メスの前でオスは尾をS字に曲げて細かく震わせる。動物質のものなら何でも食べる。初夏の水田では、孵化したばかりのオタマジャクシを待ち構え、次々と食べるようすが見られることもある。

相模原のここにいるよ

相模原市内では限られた水田地帯でしか見られず、水路や畦がコンクリートで固められた水田には生息していない。

繁殖期



成体



幼生



卵

本物のカエルはどっちだ？



右の写真は、100年前のカエルグッズ・コレクター、小沢一蛙氏がコレクションした陶製のヒキガエル。本物のヒキガエルにそっくりだと思いませんか。(江戸東京たてもの園所蔵)

<P4のジャンケンの答え>

- ①ツチガエルの前足
- ②トウキョウダルマガエルの前足
- ③ヤマアカガエルの前足
- ④ニホンアカガエルの前足
- ⑤ニホンアマガエルの後ろ足
- ⑥アズマヒキガエルの後ろ足
- ⑦シュレーゲルアオガエルの後ろ足
- ⑧カジカガエルの後ろ足
- ⑨モリアオガエルの後ろ足
- ⑩ウシガエルの前足



おもな参考文献

『改訂版 日本カエル図鑑』前田憲男・松井正文(文一総合出版)／『決定版 日本の両生爬虫類』内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関 慎太郎(平凡社)／『山溪ハンディ図鑑9 日本のカエル+サンショウウオ類』松橋利光・奥山風太郎(山と溪谷社)

さがみはら自然ガイド カエル見つけた！

平成 21 年 5 月 30 日発行

本書は相模原市立博物館の平成 21 年度夏季企画展「スキスキ大スキ！カエル展」(5/30～8/30)の関連書籍として刊行したものです。

写真 松橋利光
執筆 秋山幸也(相模原市立博物館)
高山ビッキ(100年カエル館)
戸金 大
イラスト 小林 楨
坂生 彩
編集 ケーアンドケー
発行 相模原市立博物館
〒229-0021
相模原市高根 3-1-15
TEL 042-750-8030
FAX 042-750-8061
印刷 (株)ホクシン